

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
総括研究報告書

新たな歯科医師臨床研修制度における評価方法の構築に向けた基盤研究

研究代表者 田口 則宏 鹿児島大学教授

研究要旨

新たな歯科医師臨床研修制度における評価方法を検討する上で、現状の歯科医師臨床研修における評価方法に関する実態調査を行うとともに、令和2年度より開始された新たな医師臨床研修制度、およびその評価方法に関する情報の収集を行った。

A. 研究目的

歯科医師臨床研修制度は、平成18年度の必修化以降、これまで概ね5年毎に見直しが行われているが、近年の社会環境の変化や歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂等を踏まえて抜本的な見直しが必要な時期となっている。厚生労働省医道審議会歯科医師部会歯科医師臨床研修部会において、歯科医師臨床研修制度の改正に関するワーキンググループが設置され、現状の課題に対する論点が議論された。中でも、歯科医師臨床研修に関する到達目標は平成18年度の研修必修化以降一度も変更されておらず、現在の歯科を取り巻く社会環境や疾病構造の変化を鑑みると、早急に改訂することが望まれていた。このようなことから、令和2年1月に上記ワーキンググループが報告書をまとめ、令和3年3月には歯科医師法第十六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令の改正が行われ、省令及び施行通知が発出されたところである。これに伴い、新たな到達目標に対して、各研修歯科医が到達目標に達したかどうかを適切に評価し、各臨床研修施設における修了判定に資する情報を創り出す方略の構築が必要であるが、現時点では明確な方針が打ち出されていない。現在の歯科医師臨床研修制度では、平成18年度の必修化の際、UMIN（大学病院医療情報ネットワーク）と国立大学歯学部付属病院長会議の連携を基盤としてDEBUT（オンライン歯科臨床研修評価システム）が構築され、当初は多くの臨床研修施設で活用されていたが、現在ではその施設数は減少傾向にある。現在は主に研修プログラム毎に独自の研修評価方法が用いられているといわれており、研修の評価方法についてこれまで一定の視点に基づく実態調査は行われてこなかった。

そこで本研究では、全国の研修プログラムを管理する臨床研修施設に対して、研修評価方法の実態調査を行い、研修修了判定に資する評価方法、評価基準などを明確にしていく。その上で、令和2年度より新たな制度に移行した医師臨床研修における評価システムを参考にするために、外部有識者からのヒヤリングを実施し、情報収集することを通じて、令和3

[ここに入力]

年度以降に予定されている歯科医師臨床研修制度の改正での新たな到達目標に対する具体的な評価内容や評価方法の検討を行うこととする。

B. 研究方法

1) 現状の歯科医師臨床研修における評価方法に関する実態調査

平成 18 年に必修化されて以降、歯科医師臨床研修における評価方法のみに焦点を当てた調査は行われてこなかった。本研究では、現在各臨床研修施設で運用されている評価方法やその問題点、工夫点を明らかにするために、アンケートにおける質問項目の立案を行った。その上で、回答や集計の利便性を考慮して Web アンケート方式を用いた調査を行うこととした。

2) 新医師臨床研修制度における評価システムに関する情報収集

医師臨床研修は、令和 2 年度より新たな制度に移行しており、それに合わせて評価システムも従来の EPOC から EPOC2 へと進化している。この新たな評価システムの情報を歯科医師臨床研修に活かすことを目的とし、医師臨床研修制度に造詣が深く、EPOC 2 の開発にも関わってこられた北海道大学大学院医学研究院医学教育・国際交流推進センターの高橋誠教授より情報収集する機会を持った。この有識者ヒヤリングは令和 3 年 3 月 11 日（木）16:00～17:30 に ZOOM による Web 会議システムを用いて実施した。参加者は本研究班 8 名、および厚生労働省医政局歯科保健課より 2 名の合計 10 名であった。

C. 研究結果

1) 現状の歯科医師臨床研修における評価方法に関する実態調査については、回答する研修施設の概要に関する質問項目を 7 つ、研修期間を通じた評価方法に関する質問項目を 27 つ作成した。主な内容は以下の通りである。

- ① 現在用いている総括的評価方法、形成的評価方法の種類（DEBUT、独自作成など）
- ② 各評価方法の評価基準（評定尺度、ルーブリックなど）
- ③ 各評価方法における評価内容、評価項目
- ④ 評価を行う実施体制（評価者の資格、協力型臨床研修施設、研修協力施設との連携など）
- ⑤ 研修修了判定の基準
- ⑥ 現状における評価方法の問題点と工夫

調査対象は歯科医師臨床研修を実施している全国の単独型、協力型臨床研修施設 314 としたが、回答が得られたのは 158 施設であった（回答率 50.3%）。調査の具体的な実施方法および調査結果の詳細については研究分担報告書において述べる。

2) 新たな医師臨床研修制度においては、到達目標の大幅な見直しが行われ、卒前教育の医学教育モデル・コア・カリキュラムとの連続性を考慮し卒前から卒後に至る一貫した能力の成長過程を観察できるよう整合が図られた。また、研修の到達目標（A: 医師としての基本的価値観、B: 資質・能力、C: 基本的診療業務の各項目）毎に研修医に求められる能力修得の

[ここに入力]

程度をルーブリック方式により評価する体制となった。また経験すべき症候/疾患・病態を大幅に簡素化し、実際の臨床において評価しやすい形に整えられていた。これらの情報を一つの評価記録ツールに集約するシステムとして EPOC 2 が開発された。このシステムの特徴は、研修医が携帯端末で簡便に入力できる点、UMIN ID を持たないメディカルスタッフも評価できるようにし多面評価へ対応した点、経験症例インデックスや多様な研修活動の記録を収載できるポートフォリオ機能を装備した点などがあげられる。本システムは新医師臨床研修制度の開始に合わせて令和 2 年度より本格運用し、現時点で 1 年ほどが経過しているが、細かい問題を修正しつつ、システムの精度を上げているとのことであった。

D. 考察

新たな歯科医師臨床研修制度の開始に合わせて、評価方法の見直しを行うための基盤となる情報収集を行った。全国の臨床研修施設の約半数から情報を得ることができ、実情に即した情報収集が可能となったと考えられる。調査項目は 34 項目設定し、詳細な分析を行うことが可能となった。また、医師臨床研修制度における新たな評価方法に関する情報が得られ、歯科医師臨床研修における評価方法における大きな方向性が明確となり、医科と歯科の類似点や相違点などを整理したうえで、新たな研修評価法の構築が必要であると考えられた。

E. 結論

新たな歯科医師臨床研修における評価方法を構築する上で、全国の歯科医師臨床研修施設からの有用な情報、また令和 2 年度から開始された新たな医師臨床研修における評価方法に関する具体的な情報が得られた。

F. 健康危険情報

今回の研究内容は臨床研修施設の担当者に対するアンケート調査、およびオンライン上における有識者からのヒヤリングが中心であり、健康に害を及ぼす介入等は一切含まれていない。

G. 研究発表

1. 論文発表

1) 田口則宏、西村正宏、杉浦 剛、吉田礼子、松本祐子、作田哲也、岩下洋一朗、大戸敬之、鎌田ユミ子. COVID-19 パンデミック禍における鹿児島大学での歯学教育の取り組み. 医学教育 51(5):525-527, 2020.

2. 学会発表

1) 田口則宏、鎌田ユミ子. 補綴歯科医に求められる能力の修得を考えるーコンピテンシーの段階的修得プロセスー. 令和 2 年度日本補綴歯科学会九州支部学術大会 日

[ここに入力]

本補綴歯科学会 (WEB), 2020.

2) 吉田礼子、松本祐子、作田哲也、大戸敬之、鎌田ユミ子、岩下洋一朗、田口則宏. COVID-19 パンデミック禍における鹿児島大学病院歯科医師臨床研修. 第2回南九州歯学会学術大会 南九州歯学会 (WEB), 2020.

3) 大戸敬之、岩下洋一朗、鎌田ユミ子、松本祐子、作田哲也、吉田礼子、田口則宏. 授業科目「プロフェッショナリズム」の受講経験の有無によるプロフェッショナリズム醸成過程への影響. 第39回日本歯科医学教育学会学術大会 日本歯科医学教育学会 (WEB), 2020.

4) 田口則宏、岩下洋一朗、田松裕一、西村正宏. アウトカム基盤型教育に基づくコンピテンシー評価システムの開発. 第39回日本歯科医学教育学会学術大会 日本歯科医学教育学会 (WEB), 2020.

5) 吉田礼子、松本祐子、大戸敬之、作田哲也、鎌田ユミ子、岩下洋一朗、田口則宏. 歯学生の多職種連携に関する用語の認知. 第39回日本歯科医学教育学会学術大会 日本歯科医学教育学会 (WEB), 2020.

6) 大戸敬之、作田哲也、岩下洋一朗、松本祐子、吉田礼子、田口則宏. プロフェッショナリズムの授業が歯学生に影響を与えるか. 第52回日本医学教育学会 日本医学教育学会 (WEB), 2020.

7) 宮本佑香、大戸敬之、作田哲也、岩下洋一朗、松本祐子、吉田礼子、田口則宏. 歯科医師の就業地選択に影響する要素－離島の歯科医師と、そうならなかった歯科医師の語りから－. 第52回日本医学教育学会 日本医学教育学会 (WEB), 2020.

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当無し

[ここに入力]